

第221回 全経簿記検定試験 上級 一原価計算一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1〔予想配点：丸数字は点数を示す、合計50点〕

問1 正常減損費〔 ㊤ 1,372,000 〕円

問2 月末仕掛品原価〔 ㊤ 2,940,000 〕円

当月完成品原価〔 ㊤ 10,831,500 〕円

計算過程 ※ 計算結果が誤っていても、計算過程が正しければ ㊤点

月末仕掛品 原料費：(1,695,000円+8,385,000円)×400L/1,800L=2,240,000円

加工費：(375,300円+3,404,700円)×200L/1,500L=504,000円

減損費：1,372,000円×200L/1,400L=196,000円

合計：2,240,000円+504,000円+196,000円=2,940,000円

完成品原価 1,695,000円+8,385,000円+375,300円+3,404,700円-2,940,000円-88,500円

=10,831,500円

問3 等価係数 A連産品：B連産品=1：〔 ㊤ 0.2 〕

問4 月末仕掛品原価〔 ㊤ 2,940,000 〕円

当月完成品原価〔 ㊤ 10,920,000 〕円

問5 A連産品〔 ㊤ 9,555,000 〕円

B連産品〔 ㊤ 1,365,000 〕円

問6〔下線1つにつき㊤点、合計8点〕

副産物で、そのまま外部に売却できるものは、見積売却価額から見積販売費及び一般管理費、通常の利益の見積額を控除した額で評価する。また、そのまま自家消費されるものは、これによって節約されるべき物品の見積購入価額で評価する。

なお、加工の上売却できるものは、上記からさらに見積加工費を控除した額で評価し、加工の上自家消費されるものは、上記からさらに見積加工費を控除する。

問題2 [予想配点：丸数字は点数を示す、合計50点]

問1 [具体例1つ以上で⑥点]

加給金とは、基本給に上乗せして支払われる、作業に直接関係する給付をいい、例えば、残業手当、深夜勤務手当、特殊作業手当、交代制手当などが含まれる。

問2 [完答で⑥点]

借方科目	金額	貸方科目	金額
賃 金	11,560,000	社会保険料預り金	1,734,000
諸 手 当	560,000	所得稅等預り金	1,950,000
		現 金	8,436,000

問3

予定賃率 [⑥ 2,180] 円/時間

賃率差異 [⑥ 133,200] 円 不利差異の場合は金額の前に△を付すこと

問4

賃 金			
(諸 口)	[11,560,000]	(未 払 賃 金)	[2,660,000]
(未 払 賃 金)	[⑥ 2,780,000]	(仕 掛 品)	[⑥ 7,891,600]
(賃 率 差 異)	[133,200]	(製 造 間 接 費)	[⑥ 3,921,600]
()	[14,473,200]	()	[14,473,200]

問5 [下線1つにつき②点、合計8点]

原価差異は、材料受入価格差異を除き、原則として当年度の売上原価に賦課する。予定価格等が不適当なため、比較的多額に生じた場合は、売上原価と期末における棚卸資産に追加配賦する。
 なお、材料受入価格差異については、材料の払出高と期末在高に配賦した上で、他の原価差異と同様に処理する。また、異常な状態に基づくと認められるものは、非原価項目として処理する。